

印刷WGのCFP普及活動

大日本印刷株式会社
中村 洋之
技術士（環境部門）

内容

1. CFPの普及

2. CFPの実務上の問題点とその対策

1. CFPの普及

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした環境配慮の推進について

平成26年8月5日
環境省

1. 低炭素化の推進

(1)大会の低炭素化

① 大会関連施設等の低炭素化

- ✓ 環境省は、大会関連施設の建設から廃棄に至るまでの低炭素化及び大会に係る移動手段の低炭素化の積極的な促進を大会組織委員会等に促す。

具体的には、最先端の低炭素化技術の導入を図るため、高効率の熱供給システムや地中熱利用も含めた省エネルギーに関する技術の活用支援、EV・燃料電池バスに係る技術の開発を行う。また、大会関連施設に関する様々な低炭素化技術について、採用される見込みの高い技術を選定し、望ましい技術をリスト化するとともに、関係者との協議を行う等、低炭素化技術に係る知見の提供等を行う。

さらに、過去最高水準の大会全体の低炭素化の実現に向け、都外を含む周辺地域からの大会関連施設への再生可能エネルギーの供給支援等の会場運営時の低炭素化を検討する。

② 強化されたグリーン購入基準の適用

- ✓ 現行のグリーン購入制度の一層の展開を図るため、環境関連事業やイベントでの現行基準よりも厳しい購入基準の自主的採用を促しつつ、東京大会でも世界最高水準のグリーン購入が実施されるよう技術的支援等を行う。

③ 東京大会と全国各地との連携による更なる低炭素化

- ✓ オリンピック・パラリンピック関連商品・サービスに全国各地で創出される低炭素クレジットの活用を促進することで、東京大会と全国各地を結びつけ、地域経済の循環、地球温暖化対策の推進及び地域環境の保全を図る。

(2)東京都市圏の低炭素化

- ✓ 最新の低炭素化技術リストの作成・提供や低炭素化技術の普及・波及効果に関する東京都市圏全体での予測シミュレーション、自転車道整備等低炭素交通施策の予測シミュレーションを行うとともに、東京都市圏における低炭素設備・製品の普及拡大等により、東京都市圏において環境にやさしい街づくりの実現を支援する。

また、地域活性化策と連携し、地方の再生可能エネルギー電気を東京の代表的街区に供給し、地域活性化と東京都市圏の低炭素化の相乗効果を図る。

グリーン購入法の プレミアム基準

- 環境配慮に先駆的に取り組む組織等により市場の牽引・イノベーションの促進を図るためのリーダーシップ的な基準
- 物品等の製造・提供事業者に対しても、環境配慮の先進性を訴求・差別化するための開発目標となりうる基準



将来（2,3年ないし5年程度を目途）の特定調達品目に係る判断の基準等として位置づけを行うことが見込まれる基準

プレミアム基準 の要件

- (1) 現行の判断の基準の強化（数値的強化等）
 - 他の制度や環境ラベル等の基準において、より高い基準が設定されている場合は当該基準を準用すること（具体的にはエコマーク認定商品のうち上位互換のもの、多段階評価基準の上位等が該当）
 - 重視すべきライフサイクル段階・環境負荷項目について、現行の判断の基準と比較して基準値が強化されていること
- (2) 新たな評価軸の追加
 - 現行の判断の基準に新たな評価軸（ライフサイクル段階、環境負荷項目）が追加されること
 - 配慮事項を判断の基準へ格上げすること
- (3) 自己適合宣言の強化又は第三者等による物品等の認証・確認
 - 適切かつ徹底的な情報開示による自己適合宣言が行われていること
 - 基準への適合について第三者等が行っている認証制度等により確認されていること
- (4) 他の環境施策との連携による相乗効果
 - 物品等のカーボン・オフセットやカーボンフットプリントの認証等が行われていること

2. CFPの実務上の問題点とその対策

CFPの実務上の問題点

- CFPの算定の労力が大きい
- 検証の課題
 - 検証料が高価である
10万円/件
 - 検証に時間を要する
- CFP登録・公開料
 - 1万～100万円/年・企業
(CFP製品の年間売上額)

CFPの実務上の問題点とその対策

- CFPの算定の労力が大きい ⇒ **算定方法（PCR）の改訂中**
- 検証の課題
 - 検証料が高価である
10万円/件
 - 検証に時間を要する
- CFP登録・公開料
 - 1万～100万円/年・企業
(CFP製品の年間売上額)

出版・商業印刷物（中間財）PCR（商品種別算定基準）改訂について

簡易化の方法は、従来のPCRのデータ項目を収集できない場合に、改訂中のPCRで設定したCFPデータ項目の収集のみでCFPを算定することが可能になるというものです。

＜収集するデータ項目＞

分類	データ項目
製品	製品部数
	サイズ
	頁数
	色数
	綴じ方
用紙	用紙寸法
	連量
	本紙枚数
	印刷予備枚数
	製本予備枚数
PS版	サイズ（縦×横）
	厚さ
	枚数
	メーカー
印刷機	枚葉オフまたは輪転オフ
	定格電力
	最大印刷速度

CFPの実務上の問題点とその対策

・CFPの算定の労力が大きい ⇒算定方法（PCR）の改訂中

・検証の課題

-検証料が高価である

10万円/件

-検証に時間を要する

・CFP登録・公開料

1万～100万円/年・企業

(CFP製品の年間売上額)

⇒印刷業界団体によるCFP検証

ISO 16759(印刷物のCFP)の開発経緯

ISO/TC130(印刷技術)
対象:印刷物のCFP
規格:ISO 16759

2009年	・英国から規格化提案(10月)
2010年	・WG11(環境影響)の設置 (10月)
2011年	・NWIPの登録(8月)
2012年	・CDの登録(3月) ・DIS(国際規格案)の登録 (11月)
2013年	・FDIS(最終国際規格案)の登録 (5月) ・IS(国際規格)の発行(7月)

INTERNATIONAL
STANDARD

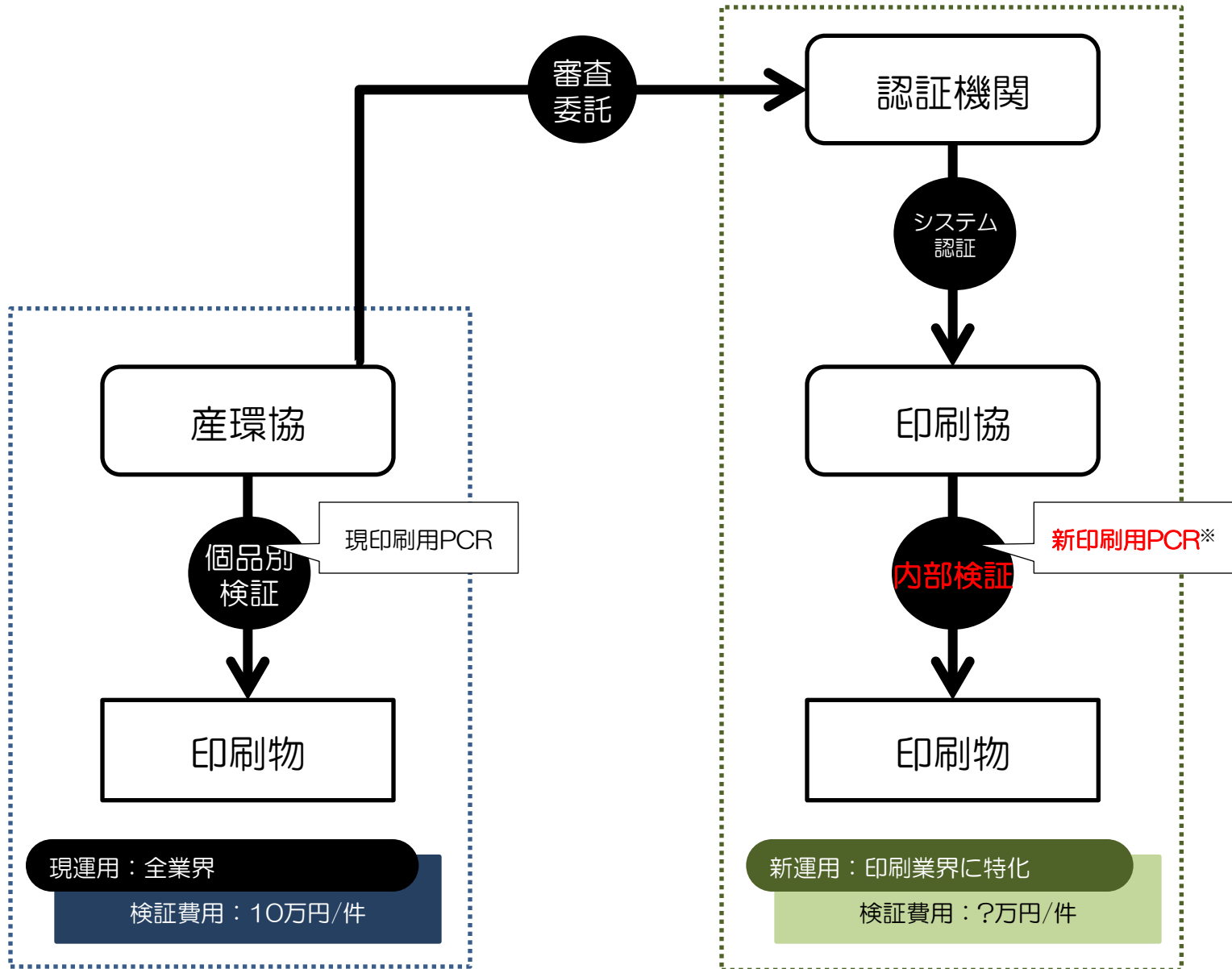
ISO
16759

First edition
2013-07-01

**Graphic technology — Quantification
and communication for calculating
the carbon footprint of print media
products**

*Technologie graphique — Quantification et communication relatives
au calcul de l'empreinte carbone des produits imprimés*

CFP検証事業ブロック図



印刷協：特定非営利活動法人 日本印刷産業技術標準化推進協議会